

○「農地維持へ集落連携も協議」

(京都府宮津市 養老地区連絡会議)(令和元年度第5回)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 令和元年11月22日(金) 19:00~21:30
- 場 所: 宮津市波見集会所
- 出 席 者: 品川推進委員、協力員・農会長6人
移住者1人、普及C1人、市・事務局各1人
※委員1人、委員以外10人
- 報 告 者: 増田 英雄 農業会議現地推進役

2 地区の特徴、状況、課題

- 大島…農業法人せんごくが地域の農地の受け手となっており遊休農地はない(常勤3人、水田4ha、ハウス18棟)
- 里波見…農家50戸、農地の条件が悪い 中波見…農家20戸、営農組合が高齢化
奥波見…農家8戸(50年前は28戸)、後継者なし、農家2人が中心

3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 農地を維持するための方針、集落間(4集落)連携について
 - ・中波見は、集落維持が最重要課題。移住希望者には仕事がネックになっている
 - ・移住者受け入れには、地域との約束事が必要
 - ・中波見農業クラブ: 離村者の農地を守っている。災害等の負担金が課題に
今後は労働力確保にかかっている。世代交代ができない
 - ・いま頑張っていることで何とかなる方法を。こうした場を設けてもらうのはありがたい
- 今後の取組: 地域の方向性について協議。里波見地域の対応(大規模農家の死去対応)



4 活動結果

- 情報・意見交換 2.5 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援